

M16C R8C デバッガパッケージ および モニタデバッガ KD30 ご使用上のお願い

M16C/60, M16C/30, M16C/20, M16C/10, M16C/Tiny, および R8C/Tinyシリーズ用 M16C R8C デバッガパッケージ およびモニタデバッガ KD30 の使用上の注意事項を連絡します。

- PCとユーザターゲットをシリアル接続してデバッグする場合の注意事項

1. 該当製品

- M16C R8C デバッガパッケージ V.1.00 Release 00 および V.1.00 Release 01
- モニタデバッガ KD30 V.4.10 Release 1

2. 内容

R8C/14, R8C/15, R8C/16, およびR8C/17グループMCUのUART機能を使用したシリアル接続(*)によってホストPCとユーザターゲットを接続している場合、デバッグ中にブレークポイントを3点以上設定すると、解除したはずのブレークポイントの位置で停止する、または設定したブレークポイントの位置で停止しない問題が発生します。

* UART機能を使用したシリアル接続の詳細についてはこちらをご参照ください。

3. 回避策

- (1) M16C R8C デバッガパッケージ V.1.00 Release 01

製品に添付されている以下のMCUファイルをご使用ください。

これらを使用することでブレークポイントの設定数は最大2点に制限されます。

R5F21144UART.MCU : R8C/14グループ用

R5F21145UART.MCU : R8C/15グループ用

R5F21146UART.MCU : R8C/16グループ用

R5F21147UART.MCU : R8C/17グループ用

- (2) M16C R8C デバッガパッケージ V.1.00 Release 00 および

KD30 V.4.10

ブレークポイントを同時に3点以上設定しないようにしてください。

4. 恒久対策

M16C R8C デバッガパッケージの次期バージョンアップ時に改修する予定です。

改修後は、UART機能を使用したシリアル接続によりデバッグを行う場合も最大4点のブレークポイントを使用可能になります。

※改修後の情報は2005年10月1日発行のツールニュースを参照ください（R8C/18,/19,/1A,/1Bグループのみ4点までのブレークポイントをサポート）。

KD30モニタデバッガをご使用の場合もM16C R8Cデバッガパッケージの次期バージョンへリビジョンアップしてください。

KD30からM16C R8Cデバッガパッケージ V.1.00 Release 01以降へは無償リビジョンアップが可能です。KD30とM16C R8Cデバッガパッケージの関係については、2005年1月26日発行のRENESAS TOOL NEWS "M16C/60, M16C/30, M16C/20, M16C/10, M16C/TinyおよびR8C/Tinyシリーズ用デバッガパッケージ V.1.00 Release 00 リリースのお知らせ"（資料番号：RSO-R0C30600DBW00-050126D）を参照ください。

【免責事項】

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。

© 2010-2016 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.